

健康リスク初期評価結果一覧 (18物質)

番号	物質名 [CAS番号]	有害性の知見(注1)				ばく露評価(注1)		MOE・過剰発生率 (注1, 3)	リスクの判定 (注4)	総合的な判定 (注4, 5)	過去の公表 (注6)
		ばく露経路	リスク評価の指標(注2)	動物	影響評価指標(エンドポイント)	ばく露の媒体	予測最大ばく露量・濃度				
1	アクリル酸エチル [140-88-5]	経口	無毒性量等(注7) 1.7 mg/kg/day	ラット	胃の相対重量増加、前胃扁平上皮の過形成	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	(○) (注8)	—
		吸入	無毒性量等(注7) 3.6 mg/m ³	ラット	鼻上皮の過形成、呼吸上皮化生など	一般環境大気	0.039 μg/m ³	MOE 1,800	○	(▲) (注12)	
2	アクリル酸ブチル [141-32-2]	経口	無毒性量等(注7) 8.4 mg/kg/day	ラット	肝臓相対重量の増加	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	(○) (注8)	第7次
		吸入	無毒性量等(注7) 1.3 mg/m ³	ラット	鼻上皮の萎縮、過形成など	一般環境大気	0.042 μg/m ³	MOE 3,100	○	○	
3	N-(2-アミノエチル)-1,2-エタンジアミン [111-40-0]	経口	無毒性量等(注7) 4.1 mg/kg/day	ラット	平均赤血球容積、平均赤血球ヘモグロビン量の増加	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	○	—
		吸入	無毒性量等(注7) — mg/m ³	—	—	一般環境大気	— μg/m ³	MOE —	×	(○) (注9, 10)	
4	イソプロパルアルコール [78-83-1]	経口	無毒性量等(注7) 297 mg/kg/day	ラット	腎臓重量の増加	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	○	—
		吸入	無毒性量等(注7) 56 mg/m ³	ラット	赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値の増加	一般環境大気	0.74 μg/m ³	MOE 7,600	○	○	
5	インジウム及びその化合物 (インジウムとして) [7440-74-6(インジウム)]	経口	無毒性量等(注7) 2.6 mg/kg/day	マウス	妊娠期の体重増加の抑制	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	(▲) (注11)	—
		吸入	無毒性量等(注7) 0.00013 mg/m ³	ラット	細気管支/肺胞の過形成 肺動脈タンパク症など	一般環境大気	0.00035 μg/m ³	MOE 4	■	■	
6	2,3-エポキシ-1-プロパノール [556-52-5]	経口	無毒性量等(注7) 0.14 mg/kg/day	マウス	体重増加の抑制	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	×	—
			AD-ブフカ- TD ₀₅	1.3 (mg/kg/day) ⁻¹	ラット	多臓器の腫瘍	—	—	EPI —	×	
		吸入	無毒性量等(注7) 0.22 mg/m ³	マウス	鼻粘膜組織への影響	一般環境大気	— μg/m ³	MOE —	×	×	(○) (注9)
			AD-ブフカ- TD ₀₅	— (μg/m ³) ⁻¹	—	—	—	—	EPI —	×	×
7	キノリン [91-22-5]	経口	無毒性量等(注7) — mg/kg/day	—	—	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	×	—
			AD-ブフカ- TD ₀₅	3 (mg/kg/day) ⁻¹	ラット	血管内皮腫又は血管肉腫	—	—	EPI —	×	
		吸入	無毒性量等(注7) — mg/m ³	—	—	—	一般環境大気	0.0069 μg/m ³	MOE —	×	(▲) (注10)
			AD-ブフカ- TD ₀₅	— (μg/m ³) ⁻¹	—	—	室内空気	— μg/m ³	MOE —	×	×
8	3-クロロプロペン [107-05-1]	経口	無毒性量等(注7) 3.9 mg/kg/day	ラット	体重増加の抑制など	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	(○) (注8)	—
		吸入	無毒性量等(注7) 0.36 mg/m ³	ウサギ	末梢神経や肝臓、腎臓への影響	一般環境大気	0.0085 μg/m ³	MOE 4,200	○	(▲) (注12)	
9	コバルト及びその化合物 (コバルトとして) [7440-48-4(コバルト)]	経口	無毒性量等(注7) 0.1 mg/kg/day	ヒト	赤血球数の増加	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	▲	—
		吸入	無毒性量等(注7) 0.001 mg/m ³	ヒト	肺機能の低下	一般環境大気	0.00074 μg/m ³	MOE 270	○	(▲) (注12)	
10	酢酸2-エトキシエチル [111-15-9]	経口	無毒性量等(注7) 500 mg/kg/day	マウス	精巣や精囊腺の重量の減少、精子の減少など	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	(○) (注8)	第6次
		吸入	無毒性量等(注7) 34 mg/m ³	ウサギ	胎仔の低体重、骨化遅延など	一般環境大気	0.14 μg/m ³	MOE 24,000	○	○	
11	ジシクロペンタジエン [77-73-6]	経口	無毒性量等(注7) 0.4 mg/kg/day	ラット	副腎の変性	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	(○) (注8)	第6次
		吸入	無毒性量等(注7) 0.5 mg/m ³	ラット	肝臓相対重量の増加 生存率の低下	一般環境大気	< 0.0025 μg/m ³	MOE > 20,000	○	(▲) (注12)	
12	1,2,4,5-テトラクロロベンゼン [95-94-3]	経口	無毒性量等(注7) 0.034 mg/kg/day	ラット	腎臓の病変	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	○	—
		吸入	無毒性量等(注7) — mg/m ³	—	—	一般環境大気	0.00016 μg/m ³	MOE —	×	(○) (注10)	
13	1,3,5-トリメチルベンゼン [108-67-8]	経口	無毒性量等(注7) 14 mg/kg/day	ラット	肝臓相対重量の増加など	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	○	第7次
		吸入	無毒性量等(注7) — mg/m ³	—	—	一般環境大気	< 0.0018 μg/m ³	MOE > 780,000	○	(▲) (注10)	
14	バナジウム及びその化合物 (バナジウムとして) [7440-62-2(バナジウム)]	経口	無毒性量等(注7) 0.21 mg/kg/day	ラット	仔の体重増加の抑制、肝臓及び腎臓相対重量の減少	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	(○) (注8)	—
		吸入	無毒性量等(注7) 0.005 mg/m ³	ラット	肺や喉頭、鼻の組織の変性	一般環境大気	0.0096 μg/m ³	MOE 10	▲	(▲) (注12)	
15	4-ビニル-1-シクロヘキセン [100-40-3]	経口	無毒性量等(注7) 11 mg/kg/day	マウス	生存率の低下	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	(○) (注8)	—
		吸入	無毒性量等(注7) 20 mg/m ³	ラット	肝臓相対重量の増加 生存率の低下	一般環境大気	< 0.029 μg/m ³	MOE > 14,000	○	○	
16	ベンジルアルコール [100-51-6]	経口	無毒性量等(注7) 290 mg/kg/day	ラット	影響のなかった最大用量	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	○	—
		吸入	無毒性量等(注7) — mg/m ³	—	—	一般環境大気	< 0.002 μg/m ³	MOE > 15,000,000	○	(○) (注10)	
17	メタクリル酸n-ブチル [97-80-1]	経口	無毒性量等(注7) 3 mg/kg/day	ラット	脾臓重量の増加、赤脾臓の萎縮	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	○	—
		吸入	無毒性量等(注7) 32 mg/m ³	ラット	鼻腔の鼻上皮の変性	一般環境大気	< 0.00048 μg/m ³	MOE > 630,000	○	○	
18	メタクリル酸メチル [80-62-6]	経口	無毒性量等(注7) 5 mg/kg/day	ラット	腎臓相対重量の増加	飲料水	— μg/kg/day	MOE —	×	○	第3次
		吸入	無毒性量等(注7) 18 mg/m ³	ラット	鼻上皮の変性及び萎縮、基底細胞の過形成など	一般環境大気	< 0.00032 μg/m ³	MOE > 1,600,000	○	○	

(注1) —: リスク評価の指標が設定できなかった、あるいは予測最大ばく露量・濃度が設定できなかった場合、MOE・過剰発生率(がん)の算出ができなかった場合。
(注2) リスク評価の指標: 本評価は基本的に安全サイドに立ったスクリーニングとして実施していること、情報の質、量は化学物質により大きく異なることから、化学物質間の相対的な毒性強度を比較するような場合等には、この数値を単純に使用するのはなく、更なる詳細な検討を行うことが必要。
(注3) MOE: 無毒性量等を予測最大ばく露量、あるいは予測最大ばく露濃度で除した値。但し、無毒性量等を動物実験から設定した場合には10で除し、さらにヒトで発がん作用があると考えられる場合には最大10で除して算出する。また、無毒性量等を発がん性から設定した場合には原則10で除して算出する。
(注4) ○: 現時点では作業は必要ない、▲: 情報収集に努める必要がある、■: 詳細な評価を行う候補、×: 現時点ではリスクの判定はできない。
(注5) リスク評価の指標が設定できない場合やばく露情報が把握されていないためにMOE・過剰発生率(がん)の算出ができず、リスクの判定ができなかった場合でも、関連情報から情報収集等の必要性について推定できた場合には、健康リスク評価分科会による総合的な判定により下記の通り分類した。
(○): 情報収集を行う必要性は低いと考えられる、(▲): 情報収集を行う必要性があると考えられる、(■): 詳細評価を行う候補と考えられる。
(注6) 再評価物質については、過去において第何次のとりまとめで公表したかを示す。
(注7) 無毒性量等: 長期間の連続ばく露に補正したNOEL又はNOAEL相当(LOAELを10で除した場合)の値。
(注8) 予測最大ばく露量を得られなかった物質: 過去のばく露量、局所地域のばく露量、生産量の推移及びPRTRデータなどを考慮した。
(注9) 予測最大ばく露濃度を得られなかった物質、局所地域のばく露濃度、PRTRデータを用いた濃度予測結果、媒体別分配割合の予測結果、大気中での半減期、生産量及び物性などを考慮した。
(注10) 経口ばく露又は吸入ばく露の無毒性量等、スロープファクター、ユニットリスクが設定できなかった物質: ばく露経路間の換算により算出した値を考慮した。
(注11) ばく露情報取得の必要性などを考慮した。
(注12) 過去のデータ、局所地域のデータ、PRTRデータを用いた濃度予測結果を考慮した。